平成２９年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（前期）
（口述試験その他）心理システム科学専修・英語文献読解等　全２枚のうち１枚目

この試験では，試験問題　２枚，解答用紙　５枚を配付する。

「英文読解」は、英文読解解答用紙の解答欄に直接解答を記入すること。
「英作文」は、英作文解答用紙を使用すること。なお、解答用紙の５枚目は、メモや下書きに使用してもよい。

§英文読解

別紙（問題用紙２枚目）の英文を読み、英文読解解答用紙の問いに答えなさい。

＊　問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

＜出典＞
Sloboda, J. A. (1985). *The musical mind: The cognitive psychology of music.* New York: Oxford University Press. より p. 74 の一部を改変して使用。

§英作文

次の日本語を英語に訳し、英作文解答用紙に書きなさい。

私は左脳人間だろうか、それとも右脳人間だろうか。
左脳人間は論理的、分析的、客観的で、右脳人間は主観的、創造的、直感的だと考えられている。２つの大脳半球は脳梁によってつながっており、互いにコミュニケーションを行っている。神経心理学者のロジャー・スペリー（Roger Sperry）は、２つの大脳半球がどのように独立して機能し、どのように協力して機能するのかを研究していた。彼はてんかん（epilepsy）の治療として患者の脳梁を切断したところ、患者の右視野を覆うと言葉を識別することができなくなった。そこでスペリーは、言語機能は左半球にあると考えたのである。
しかしその後の研究で、２つの半球は協力して機能することがわかってきた。言語処理は左半球で行われているが、左右両半球が必要なのである。人間が一方の大脳半球より他方の大脳半球を頼りにしているという証拠はないのである。

受験番号	

§英文読解解答用紙

1）英文中の（A）には、ある名詞が入る。その名詞を書きなさい。

2）英文に最も適切と思われるタイトルを英語と日本語で書きなさい。

3）英文で記述されている内容では、認知過程におけるボトムアップ処理とトップダウン処理のうち、どちらの処理が優勢だと考えられるだろうか。文中での説明を取り上げながら、自分の考えを述べなさい。また、そのような認知処理が起こりやすいのはどういう時か、文中での説明をもとに答えなさい。なお、この問題の解答には次のページも使い、全て日本語で記述すること。

受験番号	

§英文読解解答用紙（つづき）

受験番号	

§英作文解答用紙

受験番号	

§英作文解答用紙（つづき）

受験番号	

メモ用紙